

## 本堂（相輪櫓）

相輪櫓は、仏塔の屋根についている細長い装飾に似せて作られています。(輪王寺の)相輪櫓を建立したのは、天海大僧正（西暦 1536-1643）であり、彼は東照宮が創建された 1600 年初期における日光山の住職です。(相輪櫓には)経典一式が納められており、宗教的にとても重要なものと言えます。九つの輪が五大如来と四大菩薩を表しています。

そのデザインは、かつて最澄が手がけた相輪櫓にインスピレーションを受けています。最澄（西暦 767-822）は、仏教の一派である日本の天台宗の開祖であり、彼は日本全国を仏陀の守護で覆うため、6 つの相輪櫓を設置しました。一方で天海は、(輪王寺の)相輪櫓で東日本を守護し、悪霊を退散させること、そして領土内の平和を維持することを意図していたと考えられています。